

## 植 物 観 察 (6)

ウグイスの声が聞こえてきました。コブシやウグイスカグラは満開を迎え、ヤマザクラのピンク色のつぼみがぷっくりと膨らんでいます。テントウムシなど、冬眠していた虫たちもまた、暖かい光を感じて動き始めています。玉川上水に春が近づいているようです。

まだ昨秋の枯葉が多く残っていますが、足元をよく見れば、オオイヌノフグリが小さな水色の花をたくさん咲かせています。アマナやアズマイチゲ、タチツボスミレの花が見られる場所もあります。

春に咲くニリンソウだけでなく、夏や秋に咲くカンゾウやツルボの葉も、春の訪れを感じて所々に出て来ています。細く尖った葉が、冬の枯葉を貫いて生える姿からは、冬の寒さを耐えた植物たちの勢いを感じます。これからの色鮮やかな季節が楽しみです。

< O.Y. 3月15日記す >

玉川上水は江戸開府50年後の承応2(1653)年、江戸市民の飲料水として、羽村から四谷大木戸まで43kmにわたり開削されました。現在も上流部は現役の水道施設であり、小金井市など中流部は清流復活区間として、処理水を流し、水と緑の水辺空間をよみがえらせています。今都心の水系を浄化するため、通水の提案がなされています。



ススキ



シロダモの実



クサギの実



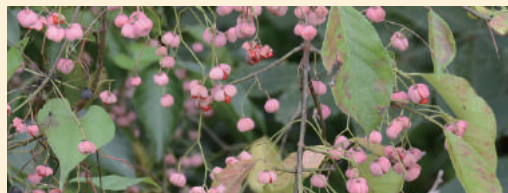
ノブドウの実



ヤマハギ



ムラサキシキブ



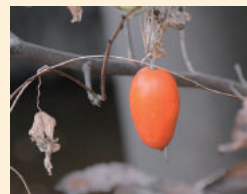
マユミの実



ヒヨドリジョウゴ



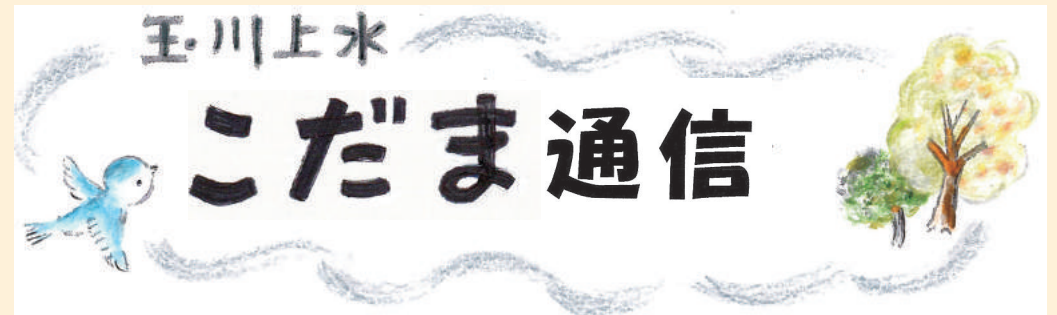
ナンテンハギ



カラスウリの実



ツルウメモドキの実



2019年4月10日 No. 6

発行：小金井玉川上水の自然を守る会 代表：加藤嘉六

E-mail：kodama2107kodama@yahoo.co.jp

<https://kodama201803.jimdo.com>

## 玉川上水の貴重な野草を守りたい！

水道局の了解の元、秋の草刈り前に玉川上水の柵内に残るワレモコウ、ナンテンハギ、野菊類の群生地などを刈り残してもらうために、小金井地区全域のマーキング(目印)を実施しました。また、マーキングは小平地区全域と合わせると9.6kmを実施しました。

玉川上水には、日本の風情を伝える江戸時代からの貴重な植物が自生しています。四季折々に法面を彩る草花、愛らしい実をつける木々です。桜もそのほかの緑も共存する『美しい玉川上水』であってほしいと思います。

